



# 女子栄養大学大学院 50周年

## 記念講演 & 座談会

少子超高齢社会における科学的根拠に基づく  
実践活動のための栄養学・保健学研究  
－大学院に期待される役割と今後の展望－



令和元年 6月 23日（日） 14:00～16:15

会場：坂戸キャンパス 12号館 5階 12501番教室

主催：女子栄養大学大学院・女子栄養大学校友会

# 女子栄養大学大学院は開設50周年を迎えました！

女子栄養大学大学院は、1969年に栄養学研究科栄養学専攻修士課程を開設して、その歴史が始まり、2019年に50周年を迎えました。これまでに修士課程修了生557名、博士の学位取得者188名を社会に輩出してきました。

そこで、開設50周年を記念し、香友会との共催で記念事業として、「少子超高齢社会における科学的根拠に基づく実践活動のための栄養学・保健学研究 - 大学院に期待される役割と今後の展望 - 」をテーマに講演と座談会を開催することとしました。



## 学長メッセージ



女子栄養大学  
学長 香川明夫

本日は、女子栄養大学大学院開設50周年記念講演＆座談会にご参加いただきありがとうございます。

本学大学院は、「栄養学のための大学院を作りたい」と栄養学専攻を、「食と健康に焦点を当てた保健学を作りたい」と保健学専攻を、学園創立者 香川綾が願い、力を傾けて開設されたものです。両専攻とも他に類を見ない大学院として進歩し続けています。そして、多くの専門家、研究者、実践家が育ち、活躍されています。

その大学院が本年度50周年を迎えるということは偏に、本日お越しの皆様をはじめ、関係者の皆様の大いなるご理解ご協力の結果と受け止めています。ありがとうございます。また、本会を実施するにあたり、女子栄養大学香友会の皆様にも大きなお力添えをいただきました。改めて御礼申し上げます。

これからも女子栄養大学大学院をよろしくお願ひ申し上げます。

## 大学院研究科長メッセージ



女子栄養大学大学院  
研究科長 武見ゆかり

女子栄養大学大学院は、人間の栄養の仕組みを科学的に解明し、その成果を活かして、人々の健康と幸福に寄与し、さらには健康的な社会づくりに貢献すべく、50年の歩みを続けてきました。50年間に輩出した修了生の数からも、また、栄養学の基礎から実践までを扱う教育課程の幅広さからみても、栄養学を学術的基盤とする大学院として、国内随一と言っても過言ではないでしょう。

最近では、教育および研究体制の充実のために国立保健医療科学院や民間企業と包括連携協定を締結し教育課程の一層の充実を図ったり、奨学金制度を充実させるなど入学しやすい環境整備を行ってきました。また、少子超高齢社会の進展の中で、保健医療専門職の高度化、教職課程の高度化という社会的ニーズに対応すべく、研究者養成のみならず、高度人材養成コースにも力を入れてきました。社会人の学び直しを目的とした履修証明プログラム（Nutrition BP）を開設し、4年目を迎えていきます。

大学院開設50周年を機に、改めて、学園の卒業生全員で大学院のこれまでの歩みを共有し、日本社会喫緊の課題である健康寿命の延伸に向けて、本学大学院の使命を考え、一層の発展を図りたいと考えます。本日はご参加くださり、厚く御礼申し上げます。

## 香友会会長メッセージ

女子栄養大学大学院開設50周年、誠におめでとうございます。

大学院は、次々と「健康・栄養・料理」の道の専門家を養成する教育機関を創設された香川綾先生が、女子栄養大学栄養学部を完成されて、さらに食の専門家をこの学校群に加えたいとの思いから、1969年栄養学研究科栄養学専攻修士課程が開設されました。

その時から50年、多くの修士課程修了・博士学位取得者が、健康の維持・増進を目的として医学、栄養学、料理の3本のシルクロードを見事に合体させる教育カリキュラムのもと学んだ「香川栄養学園の子」として、国内外で社会に貢献しております。

香川綾先生は、生涯教育を受ける機会を設けることの大切さを常々説いておられました。大学院は、大学からの直接の進学だけでなく、働きながら卒業後も疑問が出たときに、「学びを求める者」に対する学習の場としてすでに多くの会員がスキルアップして再び社会貢献をしています。

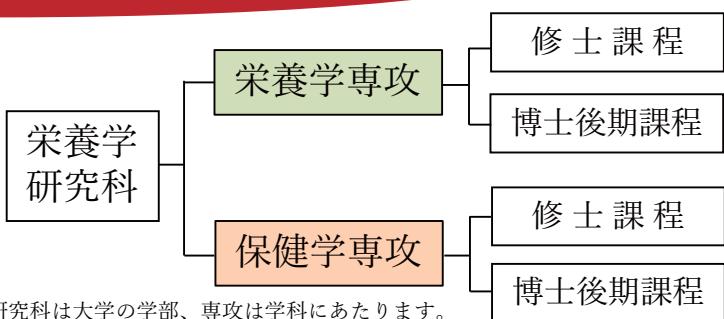
この度、50周年という特別な節目を共に迎え、大学院と香友会との共催のプログラムをお届けできることは誠に意義深いものがあります。皆様にとってこの時間が有意義なものとなりますよう願っております。



女子栄養大学香友会  
会長 山下静江

# 女子栄養大学大学院について

女子栄養大学大学院では、1969年の発足以来、生命の基本となる「栄養・食」分野の研究者、高度な実践者を輩出してきました。基礎から実践まで、遺伝子レベル、組織・細胞レベル、生体・生理レベル、行動・活動レベル、地域レベル等におけるダイナミックな人間栄養学を学ぶことができます。



※栄養学研究科は大学の学部、専攻は学科にあたります。

## 修士課程

栄養学研究科には、栄養学専攻と保健学専攻があり、大学院博士課程の前期2年間を独立した課程として、修士課程と呼んでいます。ここでは多様な研究や実践活動を構造的に把握し、研究能力や、高度人材としての専門的職業能力を養うことを目的とし、教育と研究活動を進めていきます。

### 栄養学専攻

#### 課程の目的

この課程では、栄養学の特定の分野に関する研究者養成のほか、高度人材養成を目的としています。

**定員** 入学定員：10名（収容定員：20名）

※男女を問いません

※社会人特別入学制度があります

**標準修業年限** 2年／**学位** 修士（栄養学）

#### 資格取得

- ・中学校・高等学校教諭専修免許状「家庭」
- ・栄養教諭専修免許状
- ・管理栄養士国家試験受験資格  
(本学保健栄養学科栄養科学専攻出身者が対象) ※p.6参照

### 保健学専攻

#### 課程の目的

この課程では、保健学の特定の分野に関する研究者養成のほか、高度人材養成を目的としています。

**定員** 入学定員：10名（収容定員：20名）

※男女を問いません

※社会人特別入学制度があります

**標準修業年限** 2年／**学位** 修士（保健学）

#### 資格取得

- ・中学校・高等学校教諭専修免許状「保健」
- ・養護教諭専修免許状
- ・管理栄養士国家試験受験資格  
(本学保健栄養学科栄養科学専攻出身者が対象) ※p.6参照

## 博士後期課程

栄養学研究科には、栄養学専攻と保健学専攻があります。指導教員のもとで、それぞれの分野の最新研究を行い、研究のエキスパートを目指します。

### 栄養学専攻

#### 課程の目的

栄養学の特定の課題について、独立して研究する能力をもち、リーダーとして社会に貢献できる研究者を養成します。

**定員** 入学定員：3名（収容定員：9名）

※男女を問いません

**標準修業年限** 3年

**学位** 博士（栄養学）

### 保健学専攻

#### 課程の目的

保健学の特定の課題について、独立して研究する能力をもち、リーダーとして社会に貢献できる研究者を養成します。

**定員** 入学定員：3名（収容定員：9名）

※男女を問いません

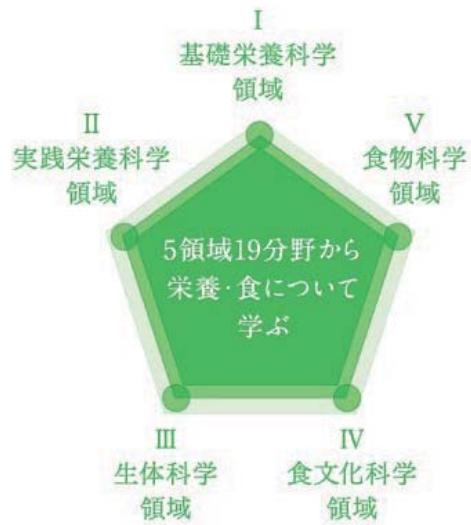
**標準修業年限** 3年

**学位** 博士（保健学）

## 栄養学専攻

\*修士課程では、栄養学の研究者の養成ならびに栄養・食の様々な分野のスペシャリストを養成しています。栄養学部における基礎教養ならびに専門的教養の上にさらに広い視野に立って栄養学の学識を修め、専門分野における研究の能力あるいは高度な実践能力を養い、社会に貢献することを目的としています。（高度人材養成コースについては、下記参照）

\*博士後期課程は、学生がその専門分野について研究者として研究活動を行うのに必要な高度の研究能力およびその基礎となる深い学識を養い、その深奥を極めることを目的としており、教育は専ら研究指導によって行われます。

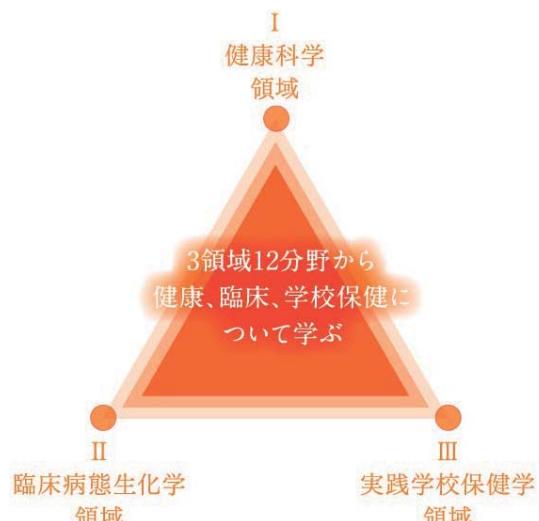


修士課程における研究領域・分野

## 保健学専攻

\*修士課程では、近未来の社会ニーズに応えられる高度な専門性と実践能力に富む健康保健分野のスペシャリストを養成しています。本課程は、グローバルな視点から現代社会のニーズに応えられる専門性と危機管理能力、高い倫理観を有する保健分野のスペシャリストを養成することによって、ヘルスプロモーションの推進とそれを可能にする社会の創造に貢献しようとするものです。（高度人材養成コースについては、下記参照）

\*博士後期課程は、今後学生が各分野の専門家として研究活動をする上で備えておくべき高度な研究能力やその基礎となる豊かな学識を養い、その深奥を極めることを目的として、ヘルスプロモーションの推進で特に重要と考えられる3分野での研究を掲げています。



修士課程における研究領域・分野

## 高度人材養成コース（修士課程のみ）

人々の健康にかかわる分野、保健医療、スポーツ栄養、国際栄養などの分野で活躍するためには、より高度な専門的知識・スキルが求められる時代になりました。この背景には、医師、保健師・看護師など他の医療職の高度化、さらには教職の6年制教育への動きがあります。そこで、栄養および保健に関わる高度な知識とスキルを十分に修得し社会で活躍する人材養成のコースを充実させました。取り組んだ課題について修士論文（高度人材養成研修成果報告書）としてまとめ、修士（栄養学）または修士（保健学）の取得ができます。

### 栄養学専攻

- ・臨床栄養（医療）コース
- ・公衆栄養（行政栄養士/地域栄養活動）コース
- ・給食経営管理コース※
- ・スポーツ栄養コース
- ・国政栄養コース
- ・食品分析・品質管理コース※

### 保健学専攻

- ・地域健康づくり支援コース
- ・栄養サポート臨床検査技師コース※
- ・学校保健・養護教諭専門能力強化コース

※本学科学専攻出身者向けの栄養士実務経験コースの対象となるコース（p.6参照）

詳細については、「大学院案内2020」をご覧ください。

# 女子栄養大学大学院50年間の歩み

年	主な出来事
昭和44年	女子栄養大学大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程を設置
平成元年	栄養学専攻に博士後期課程を設置
平成7年	保健学専攻修士課程を設置
平成9年	保健学専攻に博士後期課程を設置
	修士課程において高度専門職業人養成コース（現：高度人材養成コース）を開始
平成20年	修士課程特別奨学生制度の開始
平成21年	修士課程長期履修学生制度の開始 栄養学専攻の実践栄養学専門演習＜特定保健指導論＞を公開講座として開始（～平成30年まで）
平成26年7月	国立保健医療科学院との人材育成及び研究協力に関する協定の締結
平成27年	修士課程入学生を対象とした「浅野嘉久賞」奨学金の開始
平成28年	文部科学省認定職業実践力育成プログラムBP (Brush Up Program for Professional) 「健康長寿延伸のための食環境整備に関する高度人材養成プログラム」を栄養学専攻の履修証明プログラムとして開始
平成29年	高度専門職業人養成コースをリニューアルして、高度人材養成コースを設置し、学部の保健栄養学科栄養科学専攻卒業者を対象とした栄養士実務経験コースを開始 栄養教諭専修免許状の教職課程開始
令和元年	公益財団法人味の素奨学会と連携し、アジア諸国からの留学生受入れ開始



# 女子栄養大学大学院の最近の活動

## ★高度人材養成コースの充実

女子栄養大学大学院では、平成9年より、通常の研究者養成に加え「高度専門職業人養成」を開始し、管理栄養士等多くの専門職を社会に輩出してきました。現在、日本の将来に向かって働く世代の人口減少が深刻な社会的課題とされ、社会人の学び直しが強化されています。また、健康課題の複雑化やライフスタイルの多様化の中で、保健医療分野の専門職に求められる資質・能力も高度化しています。

こうした社会的ニーズに応えるため、平成29年より「高度専門職業人養成」を「高度人材養成コース」として、4ページに示す、栄養学専攻6コース、保健学専攻3コースにリニューアルしました。専門職としてのインターンシップなどを含む実践的な学びと研究活動ができるコースです。

## ★栄養科学専攻出身者のための「栄養士実務経験コース」

本学保健栄養学科栄養科学専攻出身の栄養士有資格者は、大学院修士課程に在学しながら、学園内施設にて1年間栄養士実務経験を行い、管理栄養士国家試験受験資格の取得を目指すことができます。1年次は学園内施設で実務を行いながら、実務のない日や時間帯に大学院の授業を受講、かつ研究活動を行います。

栄養士実務経験コースは、高度人材養成コースのうち、栄養学専攻は、給食経営管理コースと食品分析・品質管理コース、保健学専攻は、栄養サポート臨床検査技師コースが対象となります。



## ★留学生の受け入れを強化

学園全体のグローバル化の強化に合せ、大学院でも海外からの留学生の受入れを積極的に行ってています。これまでにタイ政府の国費留学生（タイ保健省の栄養技官）が博士号を取得したり、中国や韓国からの私費留学生が修士号を取得してきました。

令和元年からは、公益財団法人味の素奨学会と連携し、ASEAN+ロシアの留学生を修士課程入学に向けて受入れを開始しました。この制度を利用して、現在、インドネシアとベトナムからの留学生が、大学院研究生として、日本語を学びながら来年度からの修士課程入学準備を行っています。

## ★各種奨学金制度が充実

### 修士課程特別奨学生制度

#### ▶対象

大学院入学試験および学部成績が極めて優秀で、将来、栄養・保健分野のリーダー的存在となることが期待される者。（女子栄養大学栄養学部又は栄養学部二部の卒業生及び卒業見込者に限定）

#### ▶募集人数

栄養学、保健学各専攻につき、それぞれ入学時に2名以内（合計4名以内）とします。

#### ▶内容

入学金および授業料の全額を免除し、学納金は実験実習教育研究費・施設費のみとなります。

「浅野嘉久賞」奨学生  
女子栄養大学大学院修士課程入学生奨励

#### ▶対象

学部成績が優秀、かつ卒業研究に熱心に取組んでいて、卒業研究の指導教員の推薦があり、さらに大学院入学試験に優秀な成績で合格した者。（女子栄養大学栄養学部又は栄養学部二部の卒業生及び卒業見込者に限定）ただし、修士課程特別奨学生となった者を除く。

#### ▶募集人数 4名

▶内容 計600,000円を給付  
1年次 300,000円  
2年次 300,000円

※他にも、「横巻のぶ記念奨学生」「香友会わかば奨学生」など、様々な奨学金制度があります。詳細は「大学院案内2020」をご確認ください。

# 同時開催

## 大学院の活動に関する 展示・進学等相談コーナー

会場：12号館4階 大学院コモンスペース

時間：女子栄養大学校友会定例会員総会終了後～14時

大学院進学に興味のある方、大学院での学びに興味のある方、スキルアップを目指している方 等どなたでもお気軽にいらしてください。

大学院教務課職員 & 大学院教員が  
お待ちしています。

- ・入学試験について
- ・大学院の授業について
- ・学費について
- ・卒業後の進路について 等



修了生の学位論文の  
展示もあります

### 修了者の声

日々の臨床現場から  
生まれた課題を研究し、  
すぐに患者様に還元する  
ことができました

沼沢 玲子

栄養学専攻 修士課程2016年修了  
指導教員：田中明教授  
公益社団法人 東京都教職員互助会三楽病院  
管理栄養士（大学院案内2020より転載）

論理的思考力や  
課題解決能力を身につけ  
養護教諭の専門性を  
高めることができました

横田 彩佳

保健学専攻 修士課程2017年修了  
指導教員：野中靜教授  
埼玉県寄居町／養護教諭  
(大学院案内2019より転載)

高齢世代に対する  
健康づくりや交流の場の  
提供が重要であると  
感じました

太田 志帆

保健学専攻 修士課程2016年修了  
指導教員：金子嘉徳教授  
株式会社ネプシス リハ俱楽部 風凜／介護員  
管理栄養士  
(大学院案内2019、2020より転載)

多くの方々に健康に関する  
有益な情報を提供し、  
疾病予防や健康増進に  
繋がる支援をしたいです

西川 奈莉沙

栄養学専攻 修士課程2015年修了  
指導教員：上西一弘教授  
川越予防医療センタークリニック  
管理栄養士  
(大学院案内2019より転載)

## 記念講演＆座談会プログラム

### 少子超高齢社会における科学的根拠に基づく 実践活動のための栄養学・保健学研究 —大学院に期待される役割と今後の展望—

総合司会：遠藤 伸子

14:00～14:06

主催者挨拶

大学・短期大学部 学長 香川 明夫  
香友会 会長 山下 静江

14:06～14:15

大学院50年間の歩みと最近の活動状況

大学院 研究科長 武見 ゆかり

14:15～15:25

大学院50周年記念講演「高齢者の健康と栄養」

座長：石田 裕美

1. 高齢者の低栄養・フレイル予防に

栄養はどのように寄与できるか

女子栄養大学大学院 教授 上西 一弘 氏

2. 古くて新しいたんぱく質栄養

- 高齢者における摂取量の現状と必要量 -

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
栄養ガイドライン研究室 室長 高田 和子 氏

15:25～15:35 (休憩)

15:35～16:10

座談会「女子栄養大学大学院への期待と今後の展望」

座長：川端 輝江

#### ★登壇者★

阿部 絹子 氏	群馬県健康福祉部保健予防課
塩澤 美保子 氏	本庄市立藤田小学校 養護教諭
細田 智子 氏	(一社)日本健康俱楽部 千葉支部
島田 春奈 氏	埼玉県立がんセンター 臨床検査技師

16:10～16:15

閉会の挨拶

短期大学部 副学長 廣末トシ子

# 記念講演「高齢者の健康と栄養」

## 講演 1

### 「高齢者の低栄養・フレイル予防に栄養はどう寄与できるか」

女子栄養大学大学院 教授 上西一弘 氏

#### 【要旨】

日本はすでに超高齢社会にあり、しかも高齢者の数、割合は今後ますます増加していきます。今年の夏に発表予定の日本人の食事摂取基準2020年版でも、高齢者の低栄養・フレイル対策が重要な課題として取り上げられています。国民健康・栄養調査の結果を見ても低栄養にある高齢者の割合は決して少なくありません。フレイルは、健常状態と要介護状態の中間的な段階と位置付けられています。ここで重要なことは、健常状態からフレイルへの移行、さらにはフレイルから要介護状態への移行をできるだけ防ぐこと、またフレイルから健常状態への移行を促進することにあります。フレイルには身体的なフレイルだけではなく、意欲・判断力や認知機能低下、うつなどの精神的フレイル、閉じこもり、孤食などの社会的フレイルもあります。身体的なフレイルに大きく影響する一つの要因にサルコペニア、すなわち筋肉量、筋力の低下があります。平成29年の国民健康・栄養調査ではインピーダンス法により測定した四肢の骨格筋量からサルコペニアの該当者を推定しています。その結果、75歳以上では男性で28.8%、女性で14.4%と報告されています。

今回の講演では、これらの非常に重要な課題に対して、私たちが専門としている「栄養」がどのように寄与できるのかを、さまざまなテーマを紹介しながら考えてみたいと思います。エネルギーについていえば、日本人の食事摂取基準では現在（2015年版から）その指標としてBMIが用いられています。すなわち望ましいBMIの範囲に入っています。それが維持できていれば、エネルギー摂取量は適切であるという考え方です。高齢者では望ましいBMIの範囲の下の値が、若い年代よりも高く設定されています。これはサルコペニア、フレイルを予防するためです。

たんぱく質も筋肉量の維持、フレイルの予防に重要な栄養素です。不足や欠乏しない量だけではなく、目標量としてその範囲も示されています。適切なたんぱく質摂取が不可欠といえます。たんぱく質を構成するアミノ酸の中でもBCAA、特にロイシンの重要性についての研究が進んでいます。

近年、ビタミンDが骨だけではなく、筋肉の健康にも重要な働きをしていることが報告されてきています。日本人はビタミンDの栄養状態が悪い人が多いことが危惧されており、魚類の積極的な摂取や、適度な紫外線曝露が重要といえます。

#### 【略歴】

徳島大学 医学部栄養学科卒業

徳島大学大学院 栄養学研究科 修士課程修了

博士（栄養学）（徳島大学）

雪印乳業株式会社生物科学研究所勤務後、女子栄養大学に勤務

日本人の食事摂取基準ワーキングメンバー、食品安全委員会専門委員など

## 講演 2

### 「古くて新しいたんぱく質栄養～高齢者における摂取量の現状と必要量～」

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所  
栄養ガイドライン研究室 室長 高田和子 氏

#### 【要旨】

たんぱく質 (Protein) は、ギリシャ語のproteiosを語源としているとされている。proteiosはprots (第一の) とine(特性)から作られた語で、体にとって重要な物質といえる。以前は、食糧が十分になかったことから、栄養不足の解決は深刻な問題で、たんぱく質・エネルギー失調症であるマラスムスやクワシオルコールは栄養学の基礎で学ぶ重要な栄養不足である。これらは、健全な成長や健康の維持において重要な課題であった。日本では高度経済成長に伴い食事の状況がよくなってきたが、現在でも国際的にはこれらの栄養不足に悩んでいる国は多数ある。

今回は、1つ目の話題として、現在、食事摂取基準のたんぱく質必要量がどのように設定されているかを紹介する。私が大学時代に所属していた生理学研究室は、1960年頃からたんぱく質に関連した様々な研究を実施していた。現在も食事摂取基準のたんぱく質必要量の算定の根拠となっている窒素出納法によるたんぱく質の最低必要量に関する研究を1980年頃より実施していた。私はこの研究の一部に被験者として参加するとともに、大学院では自分のテーマとして扱っていた。現在の食事摂取基準においても、これらの値が使用されている一方で、いくつかの課題も指摘されている。

2つ目の話題として、高齢化に伴いフレイルやサルコペニア予防のためのたんぱく質の必要量について紹介する。日本では戦後、たんぱく質、特に動物性たんぱく質の摂取量は増加したが、近年はやや減少の傾向もみられる。しかし、国民健康・栄養調査の結果の公表においても、たんぱく質の過不足が話題になることはない。一方で、高齢化に伴い、高齢期に自立した生活を行うために、フレイルやサルコペニアの予防のためのたんぱく質の必要量が検討されてきている。

3つ目の話題として、フレイルやサルコペニア予防のために推奨されているたんぱく質の必要量に比べて、現在の日本人のたんぱく質摂取状況について紹介する。ここでは、国民健康・栄養調査成績をもとに、フレイルやサルコペニア予防の観点から摂取状況を検討した研究 (Ishikawa-Takata K & Takimoto H. Geriatr Gerontol Int.2018;18:723) を紹介し、たんぱく質摂取量の状況について考察したい。

#### 【略歴】

女子栄養大学 栄養学部 栄養学科実践栄養学専攻  
女子栄養大学 大学院栄養学研究科 栄養学専攻 修士課程修了  
博士（栄養学）（女子栄養大学）

卒業研究、修士課程と小池五郎先生の元で栄養生理学を学びましたが  
が、在学中から運動に興味をもち、卒業後は運動の実技指導や研究  
を行い、また栄養に戻ってきています。

# 座談会 女子栄養大学大学院への期待と 今後の展望

## 登壇者のご紹介

### 阿部 絹子 氏

#### 【略歴】

昭和58年3月 女子栄養大学 栄養学部 栄養学科 栄養科学専攻卒業  
昭和58年4月 群馬県入庁後、保健所及び本庁（保健予防課・健康長寿課・衛生食品課・教育委員会）を経て、平成21年4月に食品安全課食育推進係長、平成27年4月に保健予防課健康増進専門官、平成29年4月に健康増進主監、現在に至る

#### 【現在の主な活動】

急速な高齢化や疾病構造の変化、健康寿命の延伸、更に、社会保障制度の維持に対応した健康施策が求められ、科学的で専門性の高い健康増進事業を展開するため、専門知識を有し、健康・医療・介護データの科学的な分析及び解析を指揮するとともに、医療保健従事者、研究者（学識経験者）、保険者、企業等と十分に協議し、施策を推進する責任者（所属長クラス）である健康増進主監として活動している。

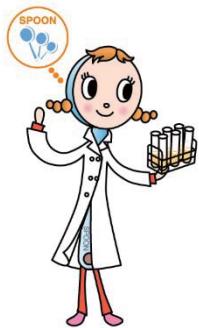
### 塩澤 美保子 氏

#### 【略歴】

平成18年3月 女子栄養大学 栄養学部 保健栄養学科 保健養護専攻卒業  
平成18年4月 埼玉県教員採用 熊谷市立男沼小学校養護教諭として着任  
平成23年4月 寄居町立城南中学校 養護教諭  
平成27年4月 本庄市立藤田小学校 養護教諭、現在に至る

#### 【現在の主な活動】

- ・日本学校保健研修社発行「健」 平成29年度 歳時記担当
- ・「新訂 養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実践」執筆



## 細田 智子 氏

### 【略歴】

平成17年3月 女子栄養大学短期大学部 食物栄養学科卒業  
平成19年3月 女子栄養大学 栄養学部 実践栄養学科卒業  
平成21年3月 女子栄養大学大学院 栄養学研究科 栄養学専攻 修士課程修了  
平成21年4月 一般社団法人日本健康俱楽部千葉支部入社

### 【現在の主な活動】

特定保健指導を担当するチームリーダーとして、保健指導実務（面談、グループ教室、電話、手紙、メール支援）だけでなく、  
渉外活動、契約担当者との打ち合わせ、請求及びデータ作成業務を  
担っています。また、日本健康俱楽部として行っている保健指導分  
科会において成果発表をする等、実施した保健指導の評価活動も  
行っております。

## 島田 春奈 氏

### 【略歴】

平成28年3月 女子栄養大学 栄養学部 保健栄養学科栄養科学専攻卒業  
平成30年3月 女子栄養大学大学院 栄養学研究科 保健学専攻 修士課程修了  
平成30年4月 埼玉県立病院入職

### 【現在の主な活動】

現在、私は臨床検査技師として埼玉県立がんセンターに勤務して  
います。病理検査室に所属しており、手術検体や生検検体を扱って  
います。入職して2年目となり、これから学会や勉強会に参加する  
機会も増えます。今年は学会で発表する予定もありますので、大学院  
での経験を活かし、精一杯取り組みたいと思います。

# 女子栄養大学大学院50周年記念プロジェクト

## メンバー

### 大学院研究科委員会 大学院修了生

武見ゆかり（研究科長、食生態学研究室）  
遠藤 伸子（保健学専攻主任、保健養護学研究室）  
石田 裕美（給食・栄養管理研究室）  
磯田 厚子（国際協力学研究室）  
大沼久美子（実践養護学研究室）  
川端 輝江（基礎栄養学研究室）  
柴田 圭子（調理科学研究室）  
野中 靜（看護学研究室）  
福島亜紀子（分子栄養学研究室）

### 学内教員 大学院修了生

#### <坂戸キャンパス>

衛藤 久美（国際協力学研究室）  
久保田美穂（保健養護学研究室）  
小岩井 馨（公衆栄養学研究室）  
駒場千佳子（調理学研究室）  
坂本 香織（栄養食事療法学研究室）  
佐藤理恵子（給食・栄養管理研究室）  
庄司久美子（基礎栄養学研究室）  
神保 夏美（調理学研究室）  
中西 明美（学校給食・食育研究室）  
根岸由紀子（栄養科学研究所）  
日笠 志津（食物科学研究室）  
府川 則子（栄養食事療法学研究室）  
松下 佳代（栄養教育学基礎研究室）  
宮澤 紀子（食品化学研究室）

#### <駒込キャンパス>

青木 隆子（食品学研究室）  
新木由希子（調理学研究室）  
小澤 啓子（栄養指導研究室）  
児玉ひろみ（調理学研究室）  
佐藤 智英（臨床栄養学研究室）  
鈴木布由実（調理学研究室）  
豊満美峰子（調理学研究室）  
廣末トシ子（食品衛生学研究室）  
松田 早苗（栄養学研究室）

## 女子栄養大学大学院50周年 記念講演＆座談会

発行日 2019年6月23日

発行者 香川明夫

発行所 女子栄養大学大学院

〒350-0288

埼玉県坂戸市千代田3-9-21

TEL 049-282-3601 (大学院教務課)

編集 女子栄養大学大学院50周年記念プロジェクト

※本冊子の内容の一部は、女子栄養大学大学院「大学院案内2020」及び「大学院案内2019」から転載している。



坂戸キャンパス

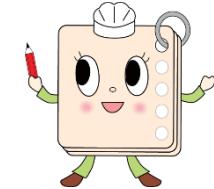
## 大学院オープンキャンパス

2019年7月21日（日） 8月11日（日）

駒込キャンパス

## 社会人のためのオープンキャンパス

2019年7月1日（月）



※ 詳細はホームページでご確認ください



女子栄養大学大学院

Graduate School of Kagawa Nutrition University

大学院のお問い合わせは

大学院教務課 (TEL : 049-282-3601 · E-mail : [inkyomu@eiyo.ac.jp](mailto:inkyomu@eiyo.ac.jp)) まで